

都市・環境工学科

Department of Civil and Environmental Engineering



都市・環境工学科とは

都市・環境工学科では、人口減少や少子高齢化にともなう社会構造の変化ならびに大規模地震や気候変動による災害リスクの高まりの中で、土木工学の知識を駆使して、人々の暮らしを守り、社会・経済活動を支える社会基盤をつくるとともに、快適な生活空間の実現に貢献する技術者の養成を目的としています。そのために、①社会資本整備技術、②防災技術、③環境保全技術などについての知識を学びます。



歩行空間の整備



卒業生が設計した九重“夢”大吊橋

大分県の街づくり・防災・水環境・インフラ長寿命化研究の拠点

都市・環境工学科は大分県内で唯一の土木工学の高等教育をする学科です。そのため教員は国、県、市などの検討委員会の学識経験者として活躍しています。また、企業等との共同研究にも積極的に取り組んでおり、授業を通じて最新情報を学ぶことができます。実験装置等も充実しており、構造物振動台、化学分析機器、街づくり、構造解析・防災などのシミュレーションシステムなどの最新の機器も備わっており、地元にいながら土木工学の最先端の学習ができます。



構造物振動台



微量な有害成分分析器



液体の化学分析器



ウェブサイトもチェック

👉 学びのPOINT!

都市・環境工学科で学べること

都市・環境工学科では安全かつ災害に強い構造物の設計法（構造力学、地盤工学など）、水資源の安定確保や水害対策（水理学、河川工学など）、交通ネットワークや都市計画（都市計画学、道路交通工学など）、水質改善や各種産業副産物の有効利用（衛生工学、環境分析化学など）、そして各種計算に必要な情報処理技術（プログラミング基礎、情報処理演習）や分析機器の使用法（環境化学実験など）を学習します。



CAD実習（3年）



測量実習（2年）



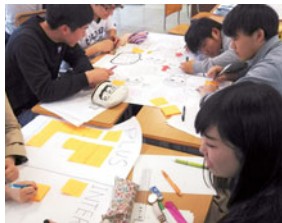
コンクリート実験（4年）



現場見学（全学年）
（国交省 九技研）



水質分析実験（4年）



都市・環境デザイン I（5年） 卒業研究(5年)【学会発表の様子】



現場見学（全学年）
（下屋形トンネル）

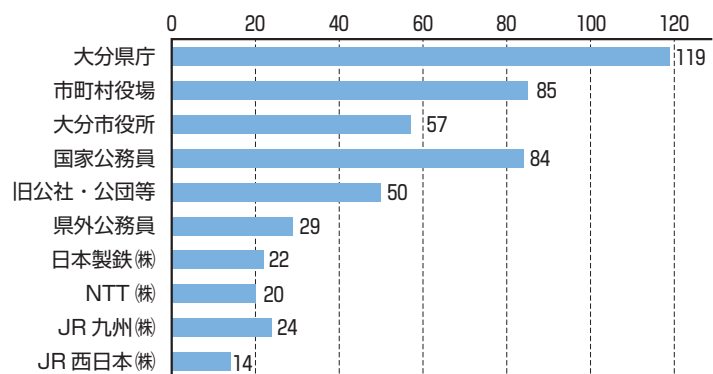
主な進路

およそ70%の学生が就職し、30%の学生が専攻科や大学の3年次に進学します。就職先としては鉄道（JR九州、JR東海など）、電力（九州電力、関西電力など）、ガス（大阪ガス、大分ガスなど）、通信（NTTインフラネットなど）などのインフラ関連企業が多く、さらには日本製鉄などの製鉄会社へも就職します。

また、右図のように、行政機関（国土交通省、大分県、大分市など）へ就職できるのが学科の特徴となっています。もちろん、県内外の建設会社や設計会社にも就職できます。



就職（昭和46年度～平成30年度）



進学

平成27年度(計12人)	平成28年度(計13人)	平成29年度(計15人)	平成30年度(計21人)
大分高専専攻科 6	大分高専専攻科 10	大分高専専攻科 7	大分高専専攻科 6
熊本大学 1	熊本大学 2	熊本大学 2	熊本大学 3
豊橋技術科学大学 2	長岡技術科学大学 1	九州工業大学 1	九州工業大学 2
長岡技術科学大学 1		大分大学 1	大分大学 1
茨城大学 1		岐阜大学 1	宮崎大学 3
徳島大学 1		宮崎大学 1	横浜国立大学 1
		豊橋技術科学大学 1	山口大学 1
		長岡技術科学大学 1	琉球大学 1
			豊橋技術科学大学 2
			岐阜高専専攻科 1